

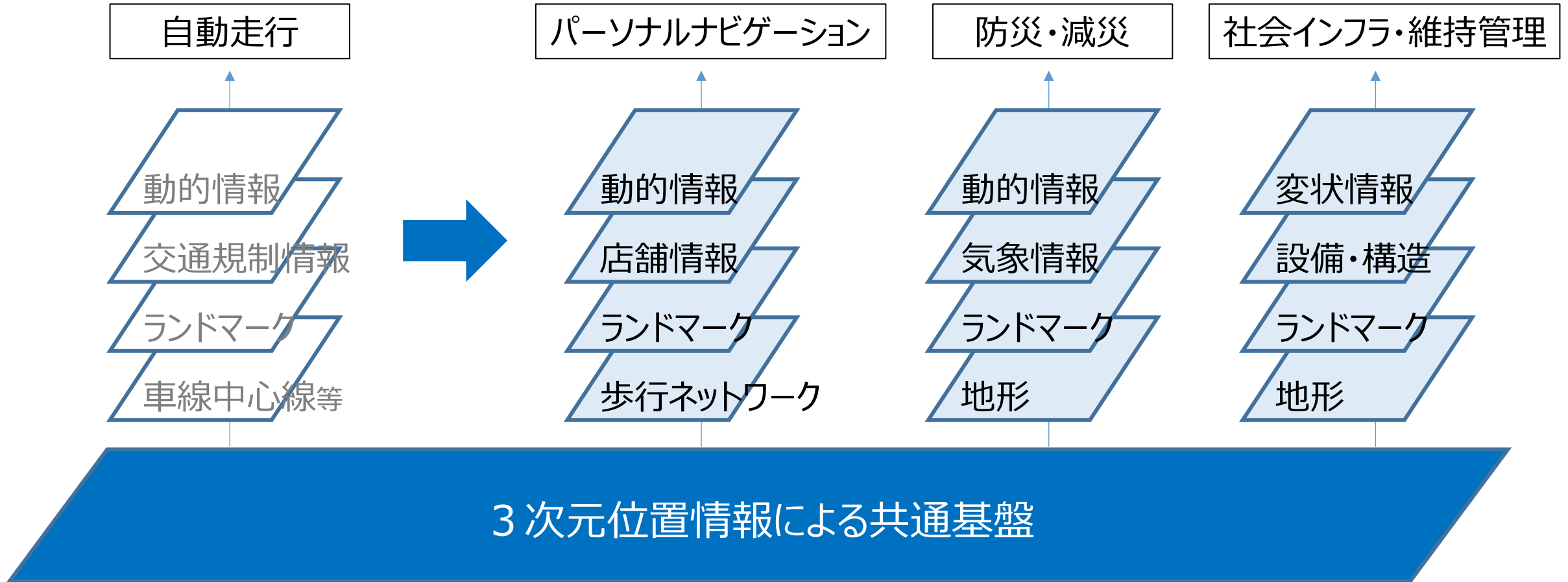


**DYNAMIC
MAP
PLATFORM**

ダイナミックマップ基盤株式会社 3次元高精度地図データの概要

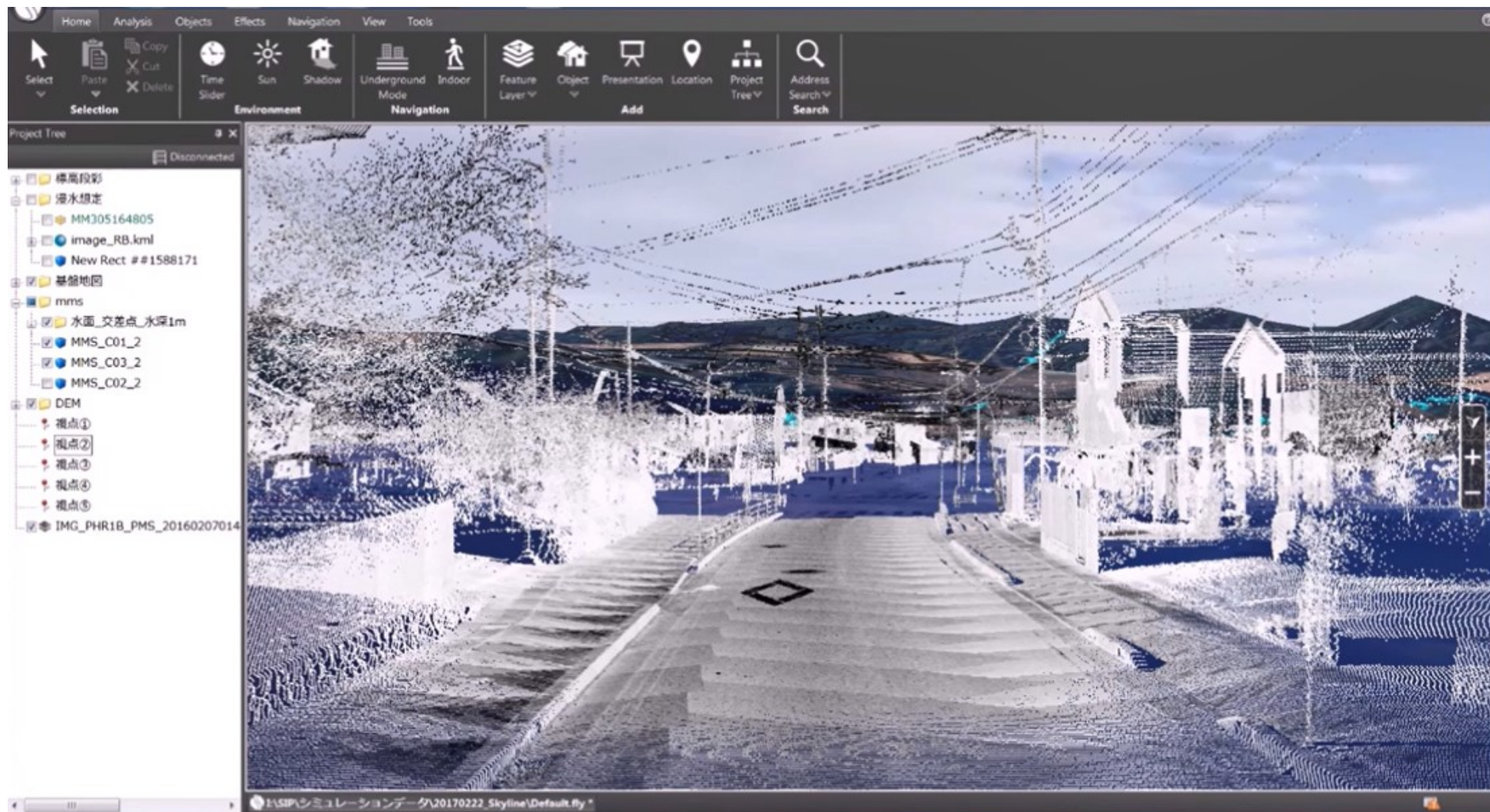
2017年10月3日
ダイナミックマップ基盤株式会社

●3次元高精度地図データは多用途での利活用を推進する



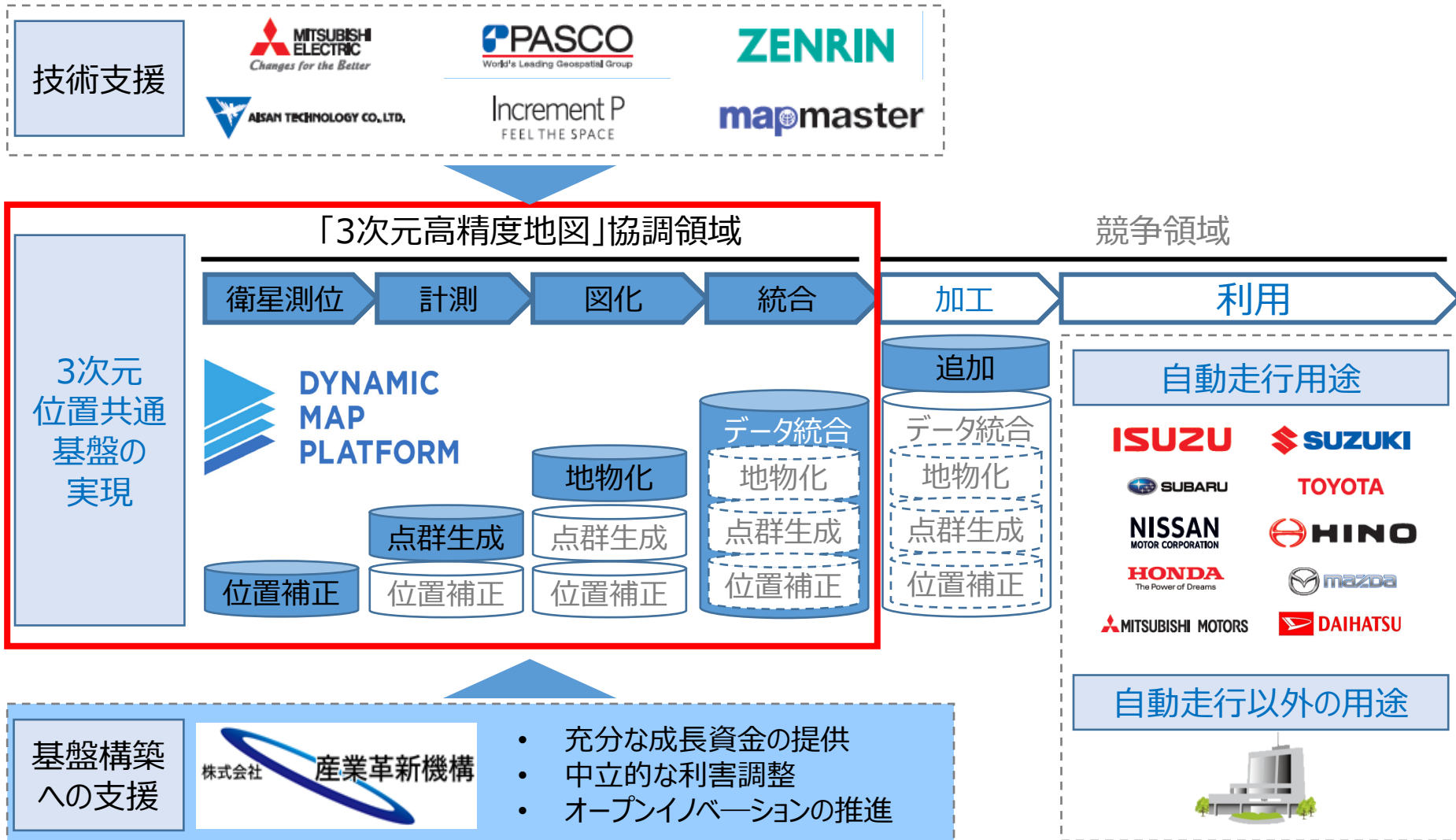
出典：COCN（産業競争力懇談会） 2015年度 プロジェクト 3次元位置情報を用いたサービスと共通基盤整備

●電柱や電線の状態把握に利用可能



3次元高精度地図データの開発

●地図の仕様・作成手法などを「世界に先駆けて」開発



今後の整備方針

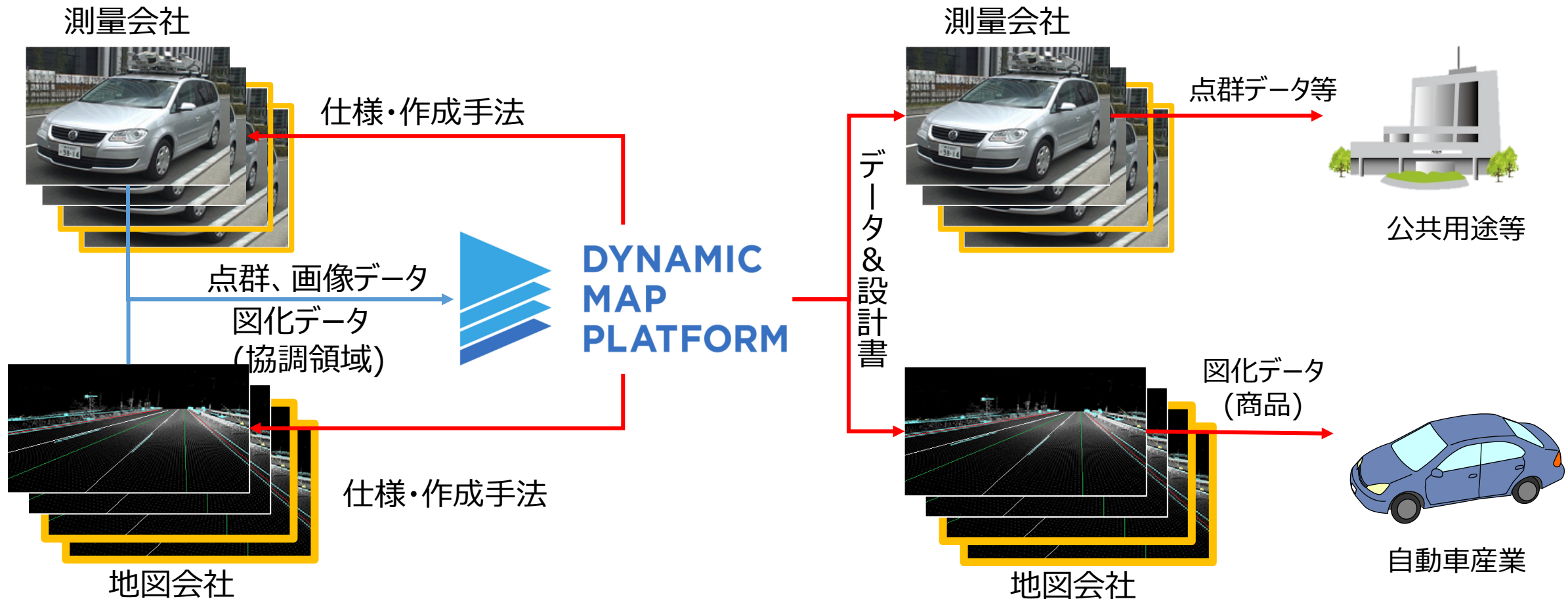
- 2018年度までに全国高速道路・自動車専用道 約30,000Km※ を整備
- 一般道(約35万Km)についても今後、整備予定

(※上下線合計)



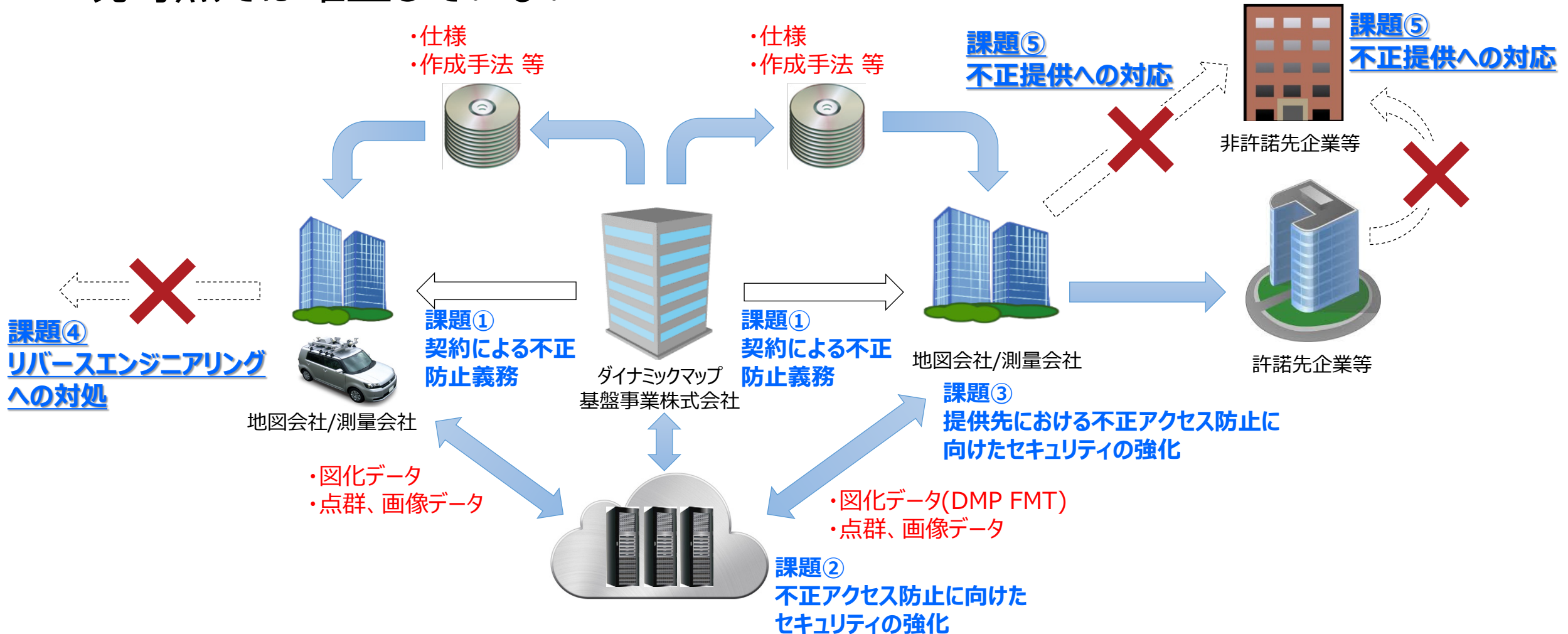
- 一般道整備、自動走行以外の用途での利活用が進むことでデータ・技術情報の
受け先は拡大する見込み

⇒データ及び技術情報の保護が重要な課題

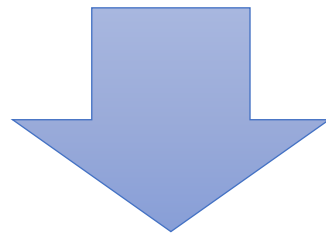


データ・技術情報の保護に対する課題

- リバーエンジニアリング、悪意を持った不正提供に対する有効性のある対策は、現時点では確立していない



- 弊社の3次元高精度地図データ仕様・作成手法は、現時点では世界的に見ても先進的であり、不正利用の防止が必須
- 特に、データ自体の不正利用のみならず、技術資料の不正利用による逸失利益が拡大(海外でのビジネスに利活用する等)
- 今後、整備範囲拡大・オープンデータ化に伴い、多くの事業者や利用者が出てくる場合、“H/W面のセキュリティ施策”や“契約面での義務化”では不正利用を防げないケースを想定



不正利用を予防するための法制面の整備をお願いしたい。